

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 7名回答、回答率 100%

保護者様： 21名回答、回答率 87%

職員の意見

○環境・体制整備

広いスペースを確保できるよう、ものの配置を工夫している。子どもたちが活動中気が散らないように玩具はパーテーションで隠している。トイレに段差があるが、歩行が安定していない児童に対しては指導員が補助につき、安全に配慮している。また段差部分にはすべり止めをつけてある。

○業務改善

本社での研修の他、教室内でも研修を行っている。今年度は本社での研修も行った。個々に振り返りシートを作成し、目標と振り返りを上司と共有するようにしている。第三者評価については今後行っていく予定。

○適切な支援の提供

役割分担をしながらチーム一丸となって行っている。ミーティングなど話し合いの機会を定期的に設けている。活動に関しては計画だけでなく反省点も含めて話し合いを持っている。個別支援計画に沿って前もって活動案を毎月考え、児童それぞれにあった療育道具を使ったり活動の度合いを決めたりしている。分担を決めることで、職員の動きの効率化に努めている。

○関係機関や保護者との連携

児童に変化があり連携での対応が必要になった時には適宜連絡を取り合うようにし、正確な情報共有に努めている。コロナの影響で地域との連携が取れていないが、今後児童館や図書館等と交流する機会を作っていきたい。

○保護者への説明責任等

連絡帳のコメントに返したり、送迎時に子どもたちの様子を伝えたりしている。保護者からの相談に関して、事業所内で話し合ったり、専門職員に助言を求めたりして適切に支援できるようにしている。契約時は重要事項を説明し、個人情報の使用同意を頂いたうえで契約している。

○非常時等の対応

毎月避難訓練を行っている。全利用者のアレルギー一覧を貼り、職員全員が把握するようにしている。ヒヤリハットにおけるミーティングを適宜行い、改善策について全員で共有している。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

「子どもの活動等のスペースが確保されていて、職員の配置数や専門性も適切である。」「バリアフリー化の配慮については、トイレに段差があるが問題はない。」というご意見をいただいた。

○適切な支援の提供

「放課後児童クラブや児童館の交流や障害がない子どもと活動する機会はないが、活動プログラムに関しては色々な活動が設定されていて満足している。」「支援計画はニーズや課題を客観的に分析して作成していると感じている。」というご意見をいただいた。

○保護者への説明等

「面談や子育てに関する助言等の支援も行われている。」「日頃から子どもの状況を伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共有理解ができている。」「苦情があった場合、迅速かつ適切に対応している。」というご意見をいただいた。

○非常時等の対応

「緊急マニュアル等の説明、避難訓練の実施はきちんと行われている。」というご意見をいただいた。

○満足度

9割の保護者が、子どもが通所を楽しみにしていると回答し、保護者からも「利用に満足している」というご意見をいただいた。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

長期休みや特別開室の時に地域の施設(図書館など)を利用する機会を作る。
学校等各種関係機関と緊密な連携を取れるよう、保護者の方に協力いただいて、関係を構築していく。

○改善できた点・まだ残る課題

特別支援学校や相談支援事業所の方とは連携がとれているが、支援級や普通級の学校との連携がとれていない。

今年度、保護者参加の開室を行ったが参加して下さる保護者が少なく、アンケートにも父母の会の繋がりのところで、いいえとつけられている方も多く、浸透していないので、沢山の方に参加していただいで保護者の繋がりがもてるように考えていきたい。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

毎日ミーティングを行い、職員一人ひとりが意見を言い合うことができる環境で、よりよい活動立案に努めている。

保護者にその日の子どもの様子を送迎時や連絡帳で細かく報告をし、自宅での様子との共通点や違いについて共有し、保護者に寄り添い、子どもの成長に関わることができるよう努めている。

○改善点

- ・図書館等の地域施設との関わりを多く持つ。
- ・学校や他事業所との連携をより深くもち、子どもたちの支援を行う。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・関係機関との連携を図り、より深く子どもたちにより適した支援を充実させる。
- ・地域の中のひとつの施設としての取り組みを充実させ、地域へ周知していく。

○1年間で取り組む具体策

- ・長期休みや特別開室を利用して、図書館等地域の施設へ子どもたちと行き、交流を図っていく。これまでも行ってきた、教室近くの店舗への買い物活動を通して、地域の方に施設のことを知ってもらい、連携を図っていく。
- ・関係機関への訪問や情報の共有を定期的に行い、利用者に多面的なアプローチができるようにする。